

「ロシア・Arctic LNG2 プロジェクト参画に関する持分売買契約締結」
「モザンビークにおける LNG プロジェクトの最終投資決断の実行」
テレフォンカンファレンス 質疑応答

1. 日時： 2019年7月8日(月) 16:00~16:50
2. 当社説明者： 執行役員エネルギー第二本部長 野崎 元靖
ロシア天然ガス事業部長 薙野 太一
LNG 事業開発部モザンビーク事業推進室長 松岡 啓
IR 部長 稲室 昌也
3. 質疑応答：

<質問者1>

- Q1：2つのプロジェクトの開発費用に関して、当社の支出のタイミングは均等なのか、キャッシュアウトの出方について。
- A1：2つのプロジェクト共に4,5年の建中期間を通じて、夫々毎年大体同じくらいの金額を支出して行くとお考え頂いて結構。
- Q2：2つのプロジェクトのJOGMECの出資分に関して、Area 1は50%、Arctic 2は75%参画していると理解しているが、将来的に同出資分を当社として買い増す考えはあるか。またArctic 2のJOGMECによる75%出資に関しては、当社のリスクを抑える為と理解して良いか。
- A2：JOGMECの權益については、JOGMECが売却の意思決定をするか、当社の依頼により売却プロセスを進めて貰うか2つの方法がある。まずJOGMECの意思決定に関してはコメントする立場にない。一方、当社が買い増しをする仕組みはあり、将来的には検討可能。Arctic 2に関してJOGMECが75%出資する事により、当社リスクが抑えられるというのはご理解の通り。

<質問者2>

- Q3：定量見通しという資料の中で、LNG事業の基礎営業CFや当期利益の業績貢献が示されているが、どのプロジェクトが入っているか内訳を教えてください。
- A3：定量見通しの中でどのプロジェクトが入っているかは非開示。
- Q4：2つのプロジェクトを比べた時、年産トン当たりの投資金額を見ると、Area 1の方がArctic 2よりも高いが、その理由は。
- A4：Area 1の数字に関しては、プロファイの費用が含まれており、見掛け上は大きく出ている為、2つのプロジェクトを比較する上では若干ミスリーディングである。尚、プロファイ費用は結構な金額が入っている事は事実で、これを差し引けばトン当たりのコストは大差ない。
- Q5：高く出ているArea 1の開発費用には、将来的な拡張を見据えて競争力が上がって行く見込み等は含まれているのか。
- A5：ご指摘の通りArea 1プロジェクトは拡張性がある為、それを見越した先行投資も含まれた金額となっている。Area 4との共用設備も含まれており、既に合意された一部のものに関しては折半する前提となっているが、それ以外のものは単独負担する前提となっており、数字が多少強めに出ている。

<質問者3>

Q6: Arctic 2 に関して当社の収益認識の方法について説明して欲しい。特に販売収益と配当収益はどう認識されるのか。プロジェクト会社からの受取配当に関してはルールが決まっているのか。

A6: プロジェクトの販売形態である Equity Lifting 方式を通じて、Japan Arctic LNG (JAL BV 社) として年間約 200 万トンの LNG を販売するが、プロジェクトと JAL BV 社が取り決める仕切り値がプロジェクトの収入となり、この仕切り値以上で販売できれば JAL BV の利益となる。これに加えて、プロジェクト会社からの配当収入を収益計上する。

配当金の支払いメカニズムは明確で、配当可能利益から出すという事。

Q7: 三菱商事の参画は今後あり得るのか。

A7: 三菱商事とは継続協議しているが、当社から開示する様な事実はなく、他社に関してコメントする立場にない。

Q8: JAL BV 社として取得した 10% 権益は少なくなる可能性あるのか。

A8: 合意したのは JOGMEC と共同で Novatek からプロジェクト会社の 10% 株式を取得したという事。将来の事に関しては、コメントを控えさせて頂く。

<質問者4>

Q9: 長期的な LNG の需給見通しについて教えて欲しい。

A9: エネルギー業界は、量の拡大と質の改善の 2 つ、いわゆる Dual Challenge に直面。この中で LNG が果たす役割は大きく、需要は今後も着実に伸びていく見通し。また、足元は弱含みで推移しているが、中長期的に同水準で推移していくとは考えにくい。業界でも、同様の見方が一般的である。

Q10: Arctic 2 プロジェクトにおける販売価格の決め方は。

A10: Arctic 2 プロジェクトにおける販売スキームについては、非開示。

<質問者5>

Q11: 環境が厳しい北極圏での開発プロジェクトという観点で、留意しておくべきリスクはあるか。

A11: 他地域でのプロジェクトとは異なるアプローチが必要となるが、オペレーターの Novatek は同地域にある Yamal LNG プロジェクトの開発実績がある。ちなみに、同プロジェクトはスケジュール前倒し、且つ計画予算内での完工に成功している。Arctic 2 プロジェクトでは、この Yamal LNG プロジェクトの経験を踏まえ、モジュール工法を採用し、且つ新たに GBS も導入することで、更なるコスト削減を図っている。

Q12: ロシア関連のプロジェクトでもあり、どのようにカントリーリスクを認識し、収益性のハードルに反映させたのか。

A12: 日本政府とも緊密に連携を取りながら進めている。また、リスク低減させるべく様々な方策を取り、持分売買契約の締結に至った。

以上